

胃癌 05a

対象疾患：進行・再発胃癌（HER2 過剰発現あり）

## 【0305a】HER+XP 療法【初回】

※2 コース目以降（ハーセプチン 6mg/kg）は、「胃癌 05 HER+XP 療法」を使用してください

## 【投与スケジュール】 1 コース=21 日（3 週）

一般名	商品名	略号	投与量	1W	2W	3W
トラスツズマブ	ハーセプチン	HER、Tmab	8mg/kg	↓ Day1		
シスプラチン	シスプラチン	CDDP	80mg/m <sup>2</sup>	↓ Day1		
カペシタビン	カペシタビン	Cape	2000mg/m <sup>2</sup> /日	14 日間服用		7 日間休薬

## 【投与日のタイムテーブル】

滴下順	薬品名	用量	投与時間
<b>Day0</b>			<b>(輸液量:1500mL/日)</b>
主管①	<入院注射>ソルデム 1 500mL	3 本	持続
<b>Day1</b>			<b>(輸液量:3030mL(+α)/日)※+αはシスプラチンとハーセプチンの液量分</b>
主管①	<入院注射>生理食塩液 500mL	3 本	持続
側管①	ハーセプチン	8mg/kg	90 分
	生理食塩液 250mL	1 本	
側管②	アロキシ静注 0.75mg	1 本	30 分
	デカドロン注射液 3.3mg	3 管	
	生理食塩液 100mL	1 本	
内服	アプレピタントカプセル 125mg	1 カプセル	シスプラチン開始 60~90 分前
側管③	KN3 号輸液 500mL	1 本	90 分
	硫酸 Mg 補正液 (1mEq/mL) 20mL	1 管	
側管④	20%マンニトール注射液 300mL	1 本	30 分
側管⑤	シスプラチン (規格無し)	80mg/m <sup>2</sup>	2 時間
	生理食塩液	300mL	
側管⑥	フロセミド注 20mg	1 本	5 分
	生理食塩液 50mL	1 本	
<b>Day2-3</b>			<b>(輸液量:1500mL/日)</b>
主管①	<入院注射> KN3 号輸液 500mL	3 本	持続
内服	アプレピタントカプセル 80mg	1 カプセル	午前中
内服	デカドロン錠 0.5mg	16 錠/日	朝・昼食後
<b>Day4</b>			
内服	デカドロン錠 0.5mg	16 錠/日	朝・昼食後
<b>Day1~14</b>			
内服	カペシタビン錠	2000mg/m <sup>2</sup> /日	朝・夕食後

## 【カペシタビン 用法・用量】

体表面積	1日用量(mg)	1日用量(錠)	用法
$BSA < 1.36 \text{ m}^2$	2400mg	300mg 錠を 8 錠	1日2回 朝・夕食後 14日間服用 7日間休薬
$1.36 \leq BSA < 1.66 \text{ m}^2$	3000mg	300mg 錠を 10 錠	
$1.66 \leq BSA < 1.96 \text{ m}^2$	3600mg	300mg 錠を 12 錠	
$BSA \geq 1.96 \text{ m}^2$	4200mg	300mg 錠を 14 錠	

催吐性	高度
組織傷害性	シスプラチン: 炎症性 ハーセプチン: 非炎症性
代表的副作用	ハーセプチン >10%・・・Infusion Reaction(約 40%) 1～10%・・・左室駆出率低下 シスプラチン >10%・・・悪心・嘔吐、食欲不振、倦怠感、腎機能障害、骨髄抑制 1～10%・・・聴力障害、末梢神経障害、電解質異常(低 Mg 血症) カペシタビン >10%・・・悪心、食欲不振、下痢、口内炎、手足症候群、骨髄抑制

## 【注意事項】

(シスプラチン)

- 光に対して不安定なため、直射日光を避け、点滴時間が 6 時間を超える場合は遮光して投与すること
- 腎毒性軽減のため、十分な量の補液が必要である。尿量や体重の変動に注意し、必要に応じ利尿剤を追加すること

(ハーセプチン)

- 初回投与は 90 分投与とし、忍容性が良好ならば、2 回目以降は 30 分に短縮可能である